

発議27号、小中学校におけるプログラミング必修化に対して支援を求める意見書につきましては、反対の立場から討論を行います。

インターネットの普及、活用分野の拡大などIT技術・産業の発展・拡大、国際社会の中でも更に広範に、また高見をめざしていくことになっていくであろうということを否定するものではありません。

ただし、小中学校におけるプログラミング化が今必要でしょうか。

危惧するのは、日進月歩で進むIT技術、これまで教えた経験もない教職員がプログラミングの必修化により、更なる多忙化が想定されますし、民間の人材を積極的に活用しても補助でしかありえず、担任の責任は重くなるばかりです。またインターネットの扱いについては、視力などの健康被害・体力低下などと同時に、数え切れないほどの沢山の情報メディアを主体的に読み解いて必要な情報を引き出し、その真偽を見抜き、活用する能力…メディアリテラシーをどう育てていくのかも、プログラミングの前に考えなければなりません。

今意見書案では、プログラミング必修化を危惧され、やむにやまれず、必要な措置を求めるものとは理解するものですが、教育の現場で今、求められているのは、英語やプログラミングの必修化の前に、知育、体育、徳育を太い柱に、どの子もよく分かるように、少人数学級の確立や、教師など職員の増員など、せめてOECDの平均に教育予算を増やすことが最優先だと指摘し、本意見書(案)への反対討論とします。